

平成30年2月5日
～美ら島の未来を拓く～
沖縄総合事務局

生活道路の交通安全対策に関する講演会及び

テーブルミーティングを開催します！

～安全な生活道路の実現を目指して～

交通安全対策基本法に基づく交通安全基本計画では、平成32年度の目標として、24時間死者数が2,500人以下の、世界一安全な道路交通の実現を目指しています。

しかし、歩行中・自転車乗車中の死者数はG7最下位であり全交通事故死者数の約半数を占め、内約半数は、自宅から500m以内の身近な道路で発生しています。

沖縄県においても、全国的な事故件数が減少する中、歩行者関連事故、子供関連の事故は依然横ばい傾向であり、生活道路対策の必要性が高まっています。

そこで、沖縄県内の生活道路対策の推進に向けて、これまでの生活道路対策の背景・経緯、最新動向や具体的な対策事例などの理解を深めていただく講演会を行うとともに、県内の生活道路対策の分析事例を参考に、具体的な対策案の検討を行うことを目的としたテーブルミーティングも開催します。

1. 開催日時

平成30年2月9日（金）14：30～16：30（14：15分開場）

2. 開催会場

浦添市社会福祉センター3F 大会議室

（〒901-2103 沖縄県浦添市仲間1丁目10番7号 TEL:098-877-8226）

※駐車場に限りがあります。出来るだけ公共交通をご利用ください。

問い合わせ先

（公財）国際交通安全学会（IATSS）

（本研究事務局：中央建設コンサルタント）

担当者：特別研究員 山中

TEL：（098）877-4390 FAX：（098）876-2661

内閣府沖縄総合事務局

開発建設部道路管理課

担当者：課長 砂川、課長補佐 那覇

TEL：（098）866-1915 FAX：（098）861-9928

生活道路対策に関するテーブルミーティングのご案内

- ・交通安全対策基本法に基づく交通安全基本計画では、平成32年度の目標として、24時間死者数が2,500人以下の、世界一安全な道路交通の実現を目指しています。
- ・しかし、歩行中・自転車乗車中の死者数はG 7 最下位であり全交通事故死者数の約半数を占め、内約半数は、自宅から500m以内の身近な道路で発生しています。
- ・沖縄県においても、全国的な事故件数が減少する中、歩行者関連事故、子供関連の事故は依然横ばい傾向であり、生活道路対策の必要性が高まっています。
- ・そこで、沖縄県内の生活道路対策の推進に向けて、これまでの生活道路対策の背景・経緯、最新動向や具体的な対策事例などについての理解を深めることを目的としたテーブルミーティングを開催します。
- ・交通安全に関わる行政担当者、調査・設計技術者及びP T A等生活道路の安全対策に関心のある方の参加をお待ちしています。



■ 日時：平成30年2月9日（金）14：30～16：30（14：15分開場）

■ 会場：浦添市社会福祉センター3F大会議室

（〒901-2103 沖縄県浦添市仲間1丁目10番7号 TEL:098-877-8226）

※駐車場に限りがあります。出来るだけ公共交通をご利用ください。

■ 主催：内閣府沖縄総合事務局・浦添市・（公財）国際交通安全学会

■ 協賛：沖縄総合事務局 南部国道事務所

■ 募集人数：100名

■ 参加費：無料【土木学会継続教育（CPD）認定プログラム】

■ プログラム（プログラム及び講師は変更の場合もございますので予めご了承ください）

14時30分～ ：開演、来賓挨拶（沖縄総合事務局次長 菊地春海）

14時40分～15時25分 ：講演（埼玉大学教授 久保田尚）

（生活道路対策の必要性、最新動向、各事業者の役割、安全対策のポイント等）

15時25分～15時35分 ：事例紹介（沖縄総合事務局、浦添市）

～休憩～（5分）

15時40分～16時30分 ：テーブルミーティング

※県内の分析事例を参考に、テーブルごとに具体的な対策案を検討し、検討後は各テーブルでまとめた案を発表いただきます。

16時30分 ：閉会挨拶

生活道路対策(参考資料)

○ ビッグデータを活用して、生活道路における速度超過箇所や急ブレーキ箇所等の急所を事前に特定し、効果的な速度低減策を実施する等の技術的支援を実施

【ETC2.0データの概要】

- 道路沿いに設置された機器と車両との双方向通信により速度、急減速等のビッグデータの収集、道路交通情報提供等が可能(道路管理者が収集)



出典:国土交通省HP
「関東のETC2.0サービス」

●有識者等による技術的助言

対策エリアは市町村からの要請に応じ、有識者等を紹介

都道府県道路交通環境
安全推進連絡会議等

要請

市町村

助言

国、有識者等

◇エリアの分析
◇交通安全診断

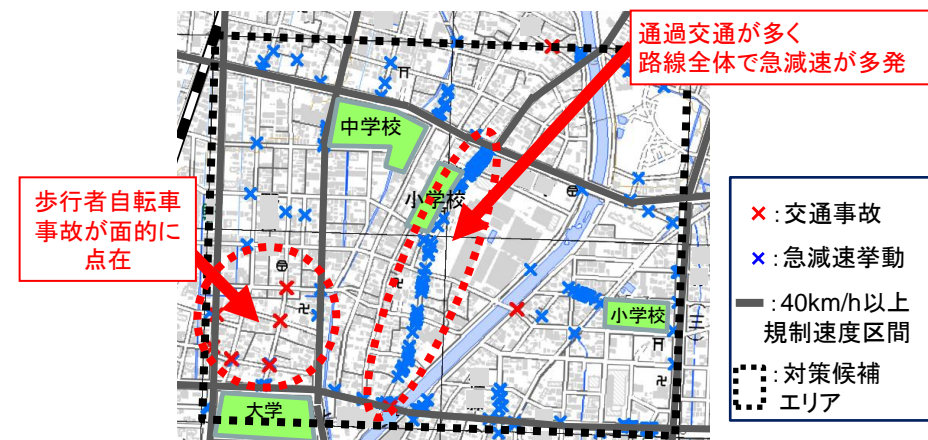
◇交通安全診断の試行

現地診断の試行状況
(H27.8 岡山市内)

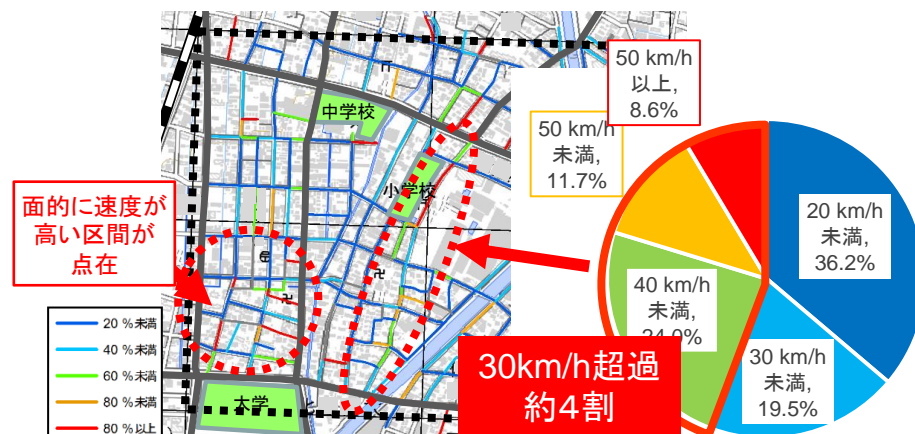


●ビッグデータによるエリア分析のイメージ(国)

<事故・急減速位置図>



<30km/h速度超過割合図>



出典:国土交通省資料

○暮らしの道を安全にする対策により、エリアの中は、歩行者・自転車中心の空間へ

進入口を入りにくくする



スムーズ歩道



ライジングボラード

走行速度を抑制する



凸部(ハンプ)



狭さく



シケイン



- 進入抑制対策
- 速度抑制対策
- 歩行者・自転車の空間を優先確保する対策

○公安委員会により実施される交通規制、交通管制及び交通指導取締りと連携

ゾーン30
(都道府県公安委員会)



歩行者・自転車の幅員を優先して確保する



危険箇所を対策する



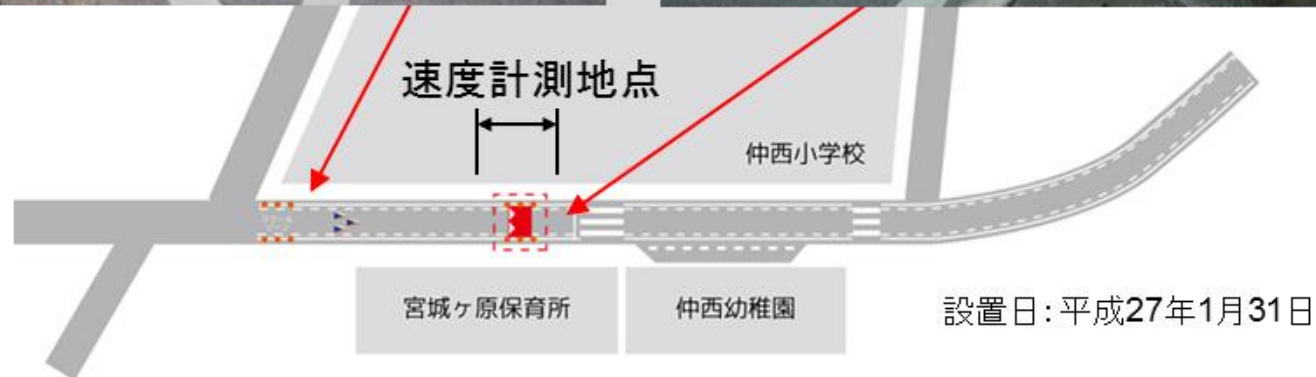
防護柵

- バス専用レーン延長(H27.2)にあわせて、並行する生活道路(浦添市仲西小前)に浦添市と沖縄県が連携して、通行車両の走行速度の抑制を図る狭さく及びハンプを整備
- 国の技術基準に基づいた形状のハンプ設置は国内初

・狭さく、イメージハンプ



・ハンプ



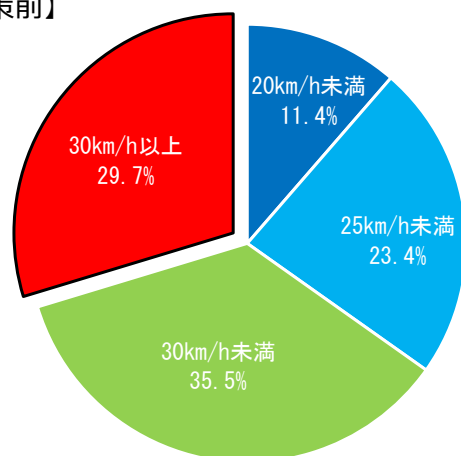
●通学路を通過する自動車の走行速度が大幅に低下

○ ハンプ整備後、**30km/h以上の速度の構成比が大幅に減少(29.7%→1.4%)**

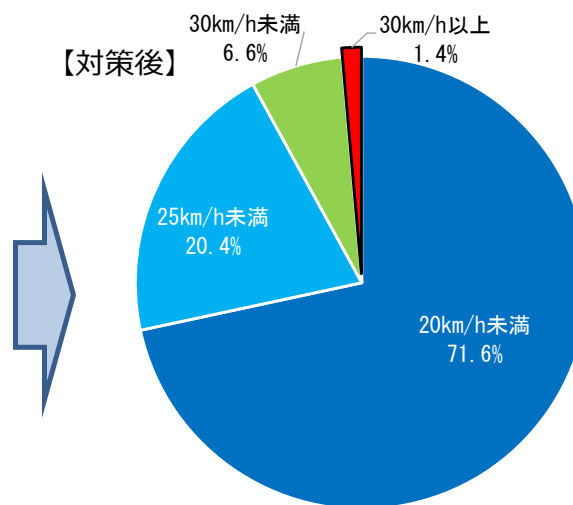
○ **20km/h未満の速度の構成比が大幅に増加(11.4%→71.6%)**

- 対策前：平成27年1月 サンプル数：3261サンプル 平均速度：26.4km/h
- 対策後：平成27年2月 サンプル数：3652サンプル 平均速度：16.8km/h(36.3%減)

【対策前】

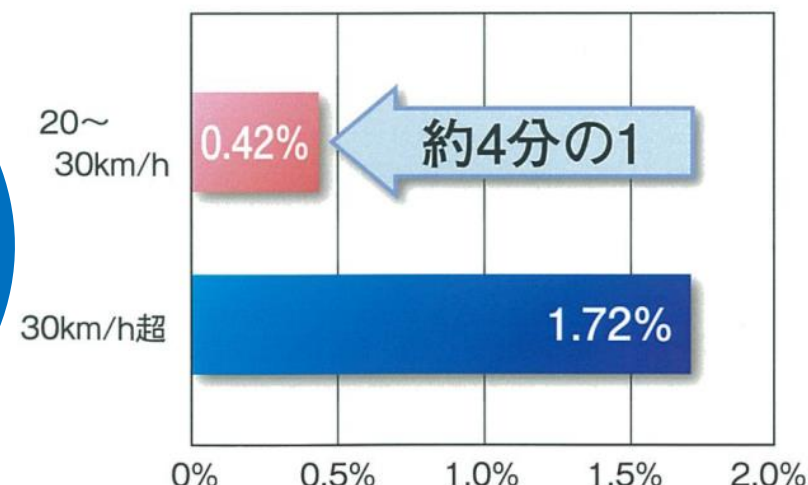


【対策後】



資料：沖縄県公共交通活性化推進協議会：第22回協議会資料データを詳細に分析

生活道路の速度別の致死率 ※



※交通事故データ(ITARDA：平成25年データ)
資料：平成28年6月道路局

1.生活道路対策エリアの取組（総括）

資料4

- 沖縄では16箇所を生活道路対策エリアとして登録（平成29年12月現在）
- うるま市、沖縄市、北中城村については、平成29年2月8日に現地点検実施し、対策案を立案
- 浦添市牧港・港川地区については、現況分析を行い、通学路WS^{*}を支援
- 浦添市仲西小学校区については、現況及び対策済み（ハンプ設置）箇所の効果検証を分析
- 石垣市については、現地状況調査により現状を把握、今後、対策を検討

※WS（ワークショップ）：特定の課題について関心のある方々が話し合い、解決策等の検討を行う場。

参考文献：市民参画の道づくり 編集・発行 市民参画型道路計画プロセス研究会・（株）ぎょうせい



▲生活道路対策エリアの位置図

生活道路対策エリア一覧表（H29. 12月現在）

	市町村	地区名	取り組み
平成27年登録	うるま市	石川1丁目地区	現地点検、対策案の検討
	うるま市	宮里地区	同上
	沖縄市	宮里地区	同上
	沖縄市	諸見地区	同上
	沖縄市	越來地区	同上
	沖縄市	中の町地区	同上
	北中城村	喜舎場地区	同上
平成28年登録	浦添市	牧港地区	現況分析、通学路WS支援
	浦添市	港川地区	同上
	浦添市	仲西小学校区	現況分析、対策効果検証
	石垣市	新栄地区	現地状況調査
平成29年登録	浦添市	神森小学校区	
	浦添市	内間小学校区	
	浦添市	宮城小学校区	
	浦添市	当山小学校区	